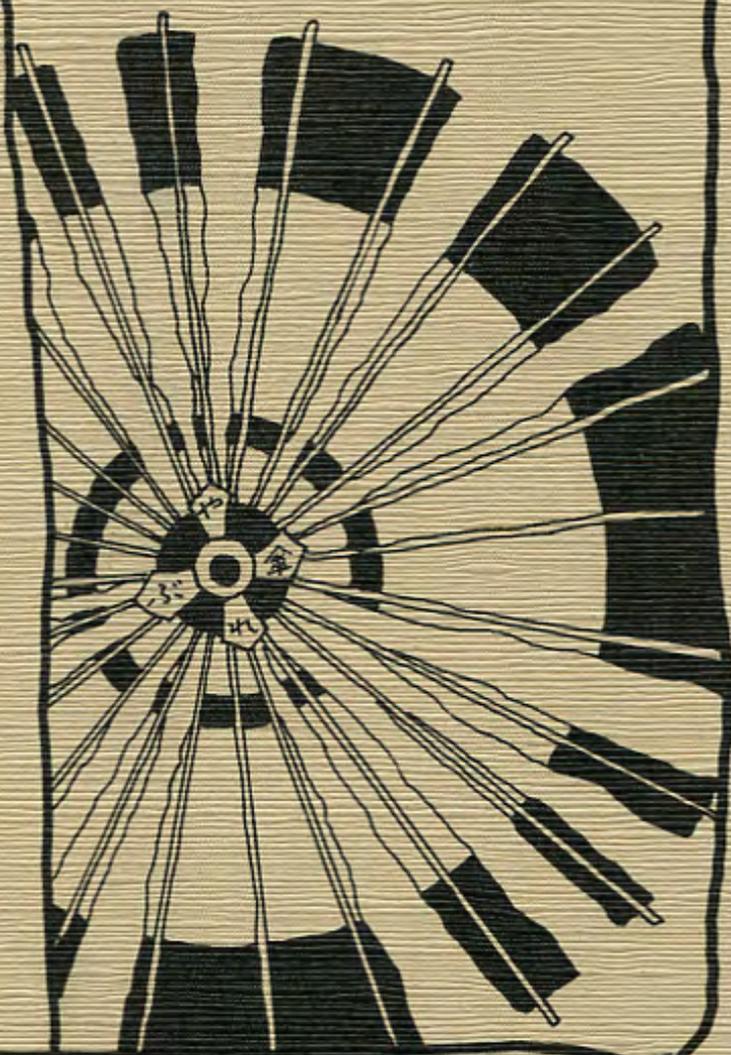


やぶれ傘



六十九号

二〇二二年十二月

どぶろくを二合宮沢賢治の忌	根橋宏次
冬銀河バブ「ぶんぶん」の点りたる	小川 滋
魚屋に胴を持たるる秋刀魚かな	きくちきみえ
おしろいの開きし家に帰りけり	丑久保 勲
四阿に埃うすうす秋の蝶	大島英昭
芋の露払ひて風の通りけり	瀬島酒望
中洲には風のあるらし枯れ芒	廣瀬雅男
葛の花まもなく碓氷峠へと	安藤久美子
白菜を首狩り族のごとく穫る	久世孝雄
この奥は隠し階段のつべ汁	天野美登里
橋の灯の秋深まりし暗さかな	白石正躬
小春日の天窓をゆく白い雲	藤井美晴
秋空へ園児の声と竹トンボ	國保八江
門出でし輪袈裟の僧に紅葉散る	渡邊孝彦
秋晴れや夕焼けだんだん石の段	有賀昌子

抄 集 句 傘 れ ぶ や
選 夫 紀 崎 大

秋閑か老いたる耳の所為ならず	松村光典
また話し繰り返す義母震災忌	松本善一
秋の風指もて髪を梳く夜は	松本正生
休耕の畑一面の尾花かな	村田 武
花八つ手空地に猫のうづくまり	秋山信行
雲刷きていざよふ月となりけり	浅嶋 肇
鹿垣の杭一本が欠けてをり	安斉正蔵
クレヨンのポスター秋の運動会	泉 一九
開帳の秘仏を離れ萩の風	上林富子
ふはふはと渡る吊り橋秋桜	黒木東吾
己が影踏みつつ上る秋の山	小池一司
香具師は腕切つてみせたり赤とんぼ	小山陽子
牛乗せて走るトラック鱈雲	齋藤朋子
増反の田を耕やせば鶴鴿来	眞田忠雄
しばらくは車庫に吊りおく唐辛子	時田義勝

葛の花

安藤久美子

赤とんぼ指先にきて暮れかかる
潮風の押し寄せて来る鶏頭花
葛の花まもなく碓氷峠へと
東京の空半分は鰯雲
秋風は車中に発車ベルの音
新豆腐ゆたりと富士の湧水に
お遊戯の佳境に入るや秋の雷
新釜に茸尽しの炊きあがる
足止むるランナー銀杏黄葉降る
スタンプの渡航記録や冬の旅

白菜

久世孝雄

書棚より大辞林抜く夜長かな
秋草を束ねてありぬ墓の供花
しなやかな指にてつまむ衣被
突風の雨戸を叩く雨月かな
真ん中を裏道続く竹の春
まんじゅさげぬかるみ続く日暮れ道
唐辛子赤くなりつつ曲りけり
荒壁に群れなす影や秋茜
歳近き男の訃報桐一葉
白菜を首狩り族のごとく獲る

通草の実

天野美登里

おくんちや蓋真ふたつに薦被り
荒畑は藪へと続き通草の実
墓地横に階段美男蔓ひく
胡麻殻に裸電球ともりけり
山あひの池干しあがる草紅葉
この奥は隠し階段のつぺ汁
裏木戸の鍵こはれゐるお茶の花
鉄瓶の蓋置く藁蔭冬ぬくし
海にむく段段畑蜜柑もぐ
虫喰ひのセーターに刺す花模様

橋の灯

白石正躬

馬追ひの声を聞きつぐ夜なりけり
秋の沼波紋をもとにもどしけり
夕風とともに刈田の匂ひかな
露時雨犬の身震ひしきりなり
山径のはつかな上り萩の花
新米の重みを腰に運びけり
川づらをひたすらに雁わたるかな
ひややかな水と思へり葉飲む
橋の灯の秋深まりし暗さかな
音立てて始まる朴の落葉かな

小春日

藤井美晴

瓦屋根すたとんと秋の没日かな
秋の空古き家並の町に来て
秋季大運動会や人まばら
立冬の五時自転車の灯し来る
糠雨にねずみもちの実ぬれにけり
側溝の鋳物の蓋に紅葉散る
書道展出でて小春の日曜日
敷石と櫟落葉の擦れる音
日を浴びつ語りつ落葉掻いてをり
小春日の天窓をゆく白い雲

竹トンボ

國保八江

白萩の径来て人を待ちにけり
オホーツクの星を見たくて賢治の忌
秋空へ園児の声と竹トンボ
木犀や車庫のシャッター開ける音
黒板のメニューは鰯のカルパッチョ
門わきの白山茶花の咲きにけり
埋み火に炭を継ぎ足す祖母の朝
小春日のコンビニに買ふエクレール
茶の花や磴を登るに杖借りて
紅葉山その先更に紅葉山

秋の暮

渡邊孝彦

高原へ登る砂利道蕎麦の花
通り雨稲田の中に農具小屋
白樺外湯の棟の秋ともし
石仏を囲む田んぼや秋湿り
ベランダに残る干し物秋夕焼
野分晴れ危篤の母の頬に触れ
屋根瓦取替へ工事秋晴るる
秋の暮町の奥より太鼓の音
門出でし輪袈裟の僧に紅葉散る
坂登りきれば区役所冬もみぢ

谷中の坂

有賀昌子

胴長め茄子を馬にし霊迎へ
棚経や五色の幡の揺るるなく
邪鬼を踏む持国天けふ白露の日
将棋指す孫と夫ゐる残暑かな
古稀の友と語る夜更けのつづれさせ
十六夜やとほく埼玉スタジアム
秋晴や夕焼けだんだん石の段
金木犀厠近くに遊女塚
竜安寺垣をはみだす曼珠沙華
秋晴の谷中の坂をめぐりけり

秋深し

松村光典

秋閑か老いたる耳の所為ならず
ごほごほと咳の始まる神無月
秋うららビールとピザとドノウ川
秋天をながめて一人酌みにけり
秋深きドノウの岸に座りけり
地中海のマグロ味はふ小春かな
エーゲ海十一月を泳ぐひと
釣り人と沖を見つめる暮早し
冬ざれのドノウに川鶉群れ来たる
大根を買って帰れと電話あり

天 零 風 盆 ぶ 柿 盆
 高 余 の 客 つ の 棚
 し 子 な に く 葉 に
 煉 蔓 な お ら を 色
 瓦 か き し と 敷 焼
 造 る 真 ぼ 蒸 し て け
 り 窓 昼 を 器 の 盛 し
 の や 庭 す 中 の た る 軸
 旧 赤 の 二 盆 の 盆 御
 廐 ワ の 歳 盆 饅 頭 茶 曼
 舎 ン 叩 子 頭 膳 羅

貫井照子

掘 ク 土 鳳 掛
 り ラ 手 仙 け
 あ ー 下 花 軸
 げ ク に 花 の
 し の コ 小 仮
 子 像 ス 樽 名
 芋 の モ の に
 を 指 ス 街 氣
 に 差 畑 の 品
 供 す 続 き 駐 や
 へ 天 高 け 涼
 け 高 け け 在 新
 り し り 所 た

中村則夫

◇ 1月・2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	1月休講	3月2回	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	8日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	8日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	9日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	26日(土)	AM10:00	桑天会	中央公民館	廣瀬雅男
	27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
2月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	16日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	17日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	不忍池・湯島	丑久保 勲
	23日(土)	AM10:00	桑天会	中央公民館	廣瀬雅男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	27日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

1月NHK教室は休講。3月29日(第5金曜)へ振り替え。

2月17日(日)の吟行。集合は10時。JR上野駅公園口改札口。

東京文化会館の前です。句会場は森下文化センター第3会議室。

◎ 連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ